

令和 6 年度 都城市立吉之元小学校 学校評価

4 段階評定（4：期待以上 3：ほぼ期待通り 2：やや期待を下回る 1：改善を要する）

項目		評価指標 （ ）内数字は指標別評価	具体的な取組	学校の自己評価（結果の考察・分析及び改善策等）	自己評価	学校関係者評価	R5評価
1	向 基 上 礎 基 本 の 定 着 と 学 力 の	少人数のよさを生かした学習指導がされていたか。 ○学校の楽しさ (3.5) ○充実した教育活動 (3.4) ○個に応じた指導 (3.4) ○学力向上の工夫 (3.4) ○基礎・基本の習得 (3.4) ○活用力、応用力 (3.2) ○家庭学習の習慣化 (3.3) ○読書活動の推進 (3.2)	・校内研修 ・授業研究協議会 ・ＩＣＴの効果的活用 ・はかせタイム ・ＮＮ学習 ・市の学習支援活用 (図書館サポーター、ＡＬＴ、 ＩＣＴ支援員) ・家庭学習推進 ・読書活動推進	○吉之元小のよさを多くの人に発信し、移住者を呼び込もうという「トモダチふやそうプロジェクト」を柱に、意欲的に学習を進めることができた。学校と地域の課題を解決しようという児童の主体性と、生き生きと楽しく学び、学力を高めてほしいという保護者・地域、教職員の願いが一つになった活動であった。その取組が認められ、都城市ボランティアスピリッツ賞（大賞）を受賞した。 ○市内22校が参加した、都城市プレゼンコンテストの本選出場（上位5組のみが出場）に加え、AIドリルによる「Q-1グランプリ」では市内の全クラスの中で1位になるなど、6年生が大活躍した1年となった。 ○小規模校の特性を生かし、日々の授業で発表する機会を数多く設けたり、個に応じた指導の工夫を行ったりしながら、児童一人一人の学力向上を図ってきた。本年度は特に、教師が授業を行う視点として「わ（わき役に徹する）・さ（先を読む）・び（微細な変化に気づく）」の理論を取り入れ実践してきた。具体的には「教師が説明や助言をするのをやめて、児童にじっくりと考える時間を与える」ということに取り組み、主体的な学習態度、考える力、対話力、協働する力を育成してきた。 ○家庭学習の時間やルールを親子で確認させたり、参観日や学級通信等での啓発や協力要請をしたりして、その習慣化を図ってきた。今後もこの取組を継続させていく。	3.4	3.5	3.3
2	の 生 心 命 の 尊 育 重 成 と 思 い や り	生命尊重と思いやりの心を育む指導がされていたか。 ○整理整頓、後始末 (2.8) ○あいさつの習慣化 (3.5) ○コミュニケーション能力 (3.2) ○人権意識、思いやりの心 (2.9) ○生命尊重、社会のきまり (3.5)	・月目標の設定 ・身のまわりの生活習慣 ・あいさつの励行 ・誕生日会 ・高齢者への年賀状作成 ・高齢者宅訪問 ・環境美化活動	○全項目中最も評価が低かったのが「身の回りの整理や後始末」であり、保護者2.6、職員2.8となった。「身の回りの整理や後始末」の習慣を付けることは、忘れ物対策にもつながるので、保護者と連携して今後も指導に当たりたい。 ○「あいさつ」についての評価は、保護者3.4、児童3.8、職員が3.3となった。ふだんから職員とあいさつを交わしたり、来客に対しても礼儀正しくあいさつしたりする姿が見受けられる。あいさつは、人間関係づくりの第一歩でもあるので、自ら進んで「気持ちの良いあいさつ」ができるよう、今後も指導を継続し見守っていきたい。 ○道徳科や人権に関する日々の授業を通して、心の教育を充実させた。また、全職員が積極的に児童との関わりをもち、一人一人の状況や人間関係を把握するようにしたことで、充実した教育相談を実施することができた。「人権意識、思いやりの心」の育成に関する評価は2.9となった。「いたずら」が「いじめ」になるという認識を高めるために、具体的な言動の在り方を示しながら指導を継続していく。	3.2	3.2	3.2
3	の 健 充 康 実 ・ 安 全 教 育	体力、安全、健康や食に関する指導がされているか。 ○体力づくり (3.3) ○安全に気を付けた行動 (3.3) ○健康や食に関する指導 (3.3) ○マナーに気を付けた食事 (3.1)	・水泳・なわとび ・一輪車・持久走 ・ダンス ・給食指導・歯磨き指導 ・健康生活チェック ・避難訓練	○児童の実態に即した「体力向上プラン」の取組を設ける一方で、水泳やなわとび、一輪車、持久走などの体育学習に組織的に取り組んできた。。その結果、児童の運動意欲が高まり、昼休みに外遊びをする児童が増えてきた。体力テストにおいても、4名の児童が総合評価Aという優秀な成績となった。 ○毎月の安全点検を入念に行った。また、気になる情報を全職員で共有しながら危機管理に努めた。ブラインド型避難訓練を県内で初めて行うなど、各種避難訓練を5回実施し、職員と児童の危険回避への意識を高めた。 ○保健だよりや参観日などで望ましい健康生活に関する啓発を続け、家庭と連携しながら、「早寝早起き、朝ご飯」の習慣化を図ったり、感染症予防対策を実行したりして、その流行を防ぐことができた。	3.3	3.5	3.3
4	育 吉 の 之 充 元 実 な ら で は の 教	地域の人材や環境を生かした吉之元ならではの教育活動がされているか。 ○地域の人材や環境を生かした活動 (3.6) ○地域の行事参加 (3.6)	・トモダチふやそうプロジェクト ・ホームページ、SNSの活用 ・稲作体験 ・さつまいもづくり ・給食交流会 ・もちつき ・アイススケート学習 ・高齢者宅訪問	○地域の人材や環境を生かした様々な活動を通して、児童は吉之元のよさを感じ、楽しく学習することができた。吉之元秋のフェスタでの発表や、吉之元スポーツフェスタ、給食交流会は児童の地域を愛する心をさらに高めるものになったと考える。 ○昨年実施できなかったアイススケート学習も、保護者の協力を得て実施することができた。新聞やテレビの取材も多く来ていただき、この学習を通して吉之元小の魅力を県内外に伝えることができた。 ○本年度も、グランドゴルフ大会、稲作体験、地域と合同の運動会、餅つき、給食交流会等、地域の方々と交流する機会が豊富にあった。また、月曜日の早朝の時間帯に、地域の方々の有志による学校の花壇の整備活動を行ってもらっている。地域の方々に見守られ、ふれあい、育まれることを実感できた1年になった。 ○ホームページやInstagram、YouTubeチャンネルは、学校と保護者、地域、そして卒業生をつなぐ役割を果たし、大変好評であった。	3.6	3.7	3.6